

AWS ・ Azure ・ OCIを並べて 提案してみた

2020年9月15日

会社概要

テクバンは、ソフトウェアエンジニア約500名、インフラエンジニア約200名、運用エンジニア約200名が在籍する、エンジニアリソースが豊富なシステムインテグレータ企業です。

TECHVAN

名称	テクバン株式会社	事業内容	システムソリューション事業 ソフトウェア開発サービス、システム品質支援サービス ビジネスアプリケーション導入サービス
本社住所	東京都港区海岸3-20-20		
設立	1996年2月29日		
代表者	代表取締役 高松 睦夫		
資本金	1億円（2020年1月現在）		
売上高	113億円（24期：2019年12月度）		
社員数	1,002名（2019年4月現在）		
許認可・認証	一般労働者派遣事業 許可証番号派13-301759 ISMS 登録証番号：JP15/080348 プライバシーマーク 認定番号：第10823104号 電気通信事業者 届出番号：A-26-14012		
加盟団体等	IT検証産業協会 日本ブロックチェーン協会	アライアンス	Oracle PartnerNetwork SELL / LICENSE & HARDWARE AWS APN セレクトコンサルティングパートナー Cisco プレミアパートナー Microsoft Gold コンピテンシーパートナー VMware Principal Partner Digital Workspace

会社概要

私が所属するインフラソリューション部では
パブリッククラウドの設計・構築を扱っております。



メンバーはメインとなるクラウドを扱いつつ、
作業量や好みによって他のクラウドも対応する

顧客からの要求

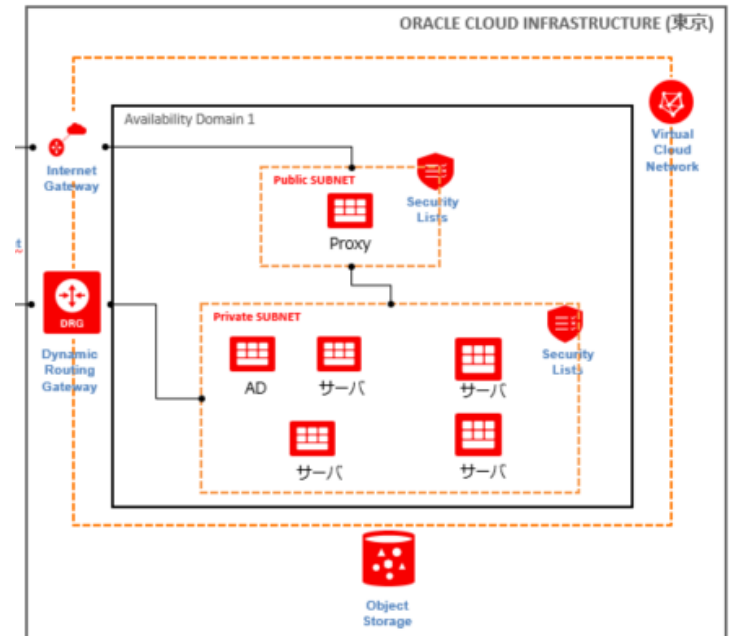
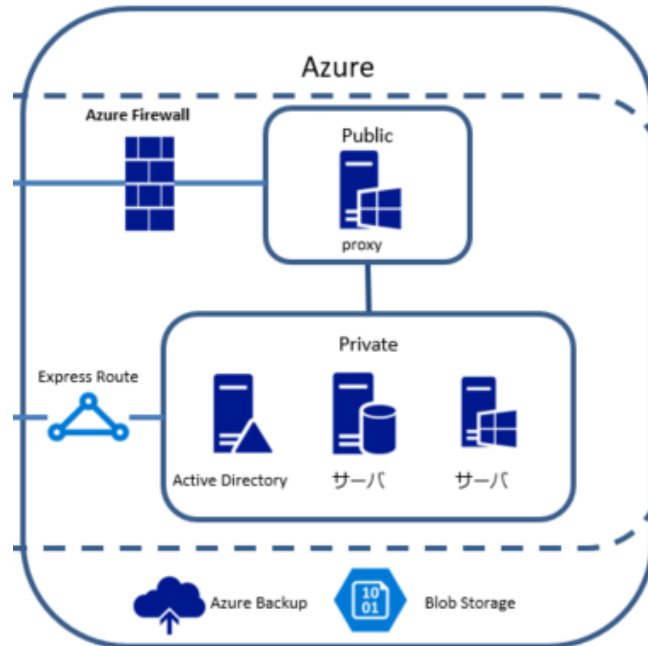
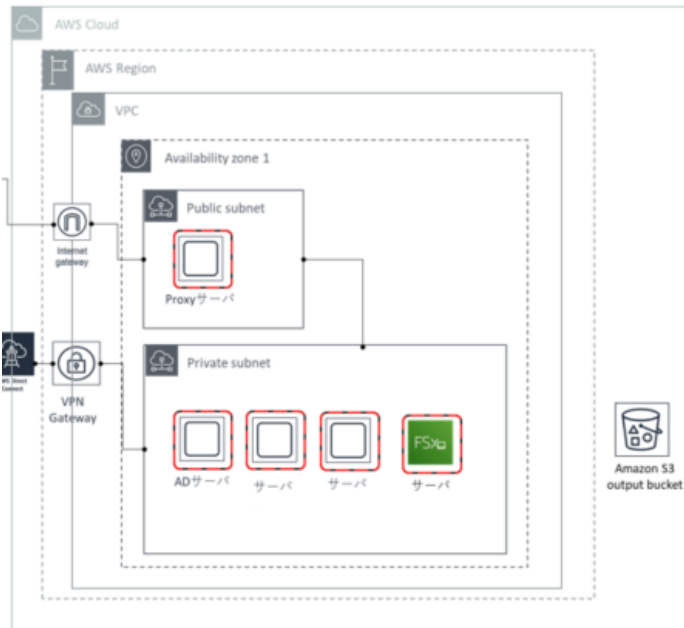
「オンプレの基幹システムをパブリッククラウドに移行したい」
とのことだがクラウドに関する知見は無いとの事。

⇒ 弊社は主に AWS・Azure・OCI を扱っているがどれを提案するか？

⇒ 並べて提案することにしました。

提案内容について

AWS・Azure・OCIを並べて提案するにあたり、
まったく同じ構成にはならず、各クラウドの特色が少し出てきました。



提案内容について

提案内容としては次の通り

	AWS	Azure	OCI
特長	<ul style="list-style-type: none">・ファイルサーバはマネージドサービス (Amazon FSx for Windows ファイルサーバ) を利用 (他のクラウドはWindowsサーバを別途準備)	<ul style="list-style-type: none">・URLフィルタとしてAzure Firewallを使用 (他のクラウドは別途ソフトウェアを購入して対応)	<ul style="list-style-type: none">・FastConnectの場合、ダウンロード課金は発生しないことを前面に出した
運用コスト	普通(Azureの5分の4)	高め(数百万)	低め(Azureの半分程度)
SIコスト	構築費用は ほぼ同じ		

結果

最終的にはMicrosoft製品を主に使いたいとのことで
Azureメインで提案する形となりました。

※ただ、OCIのコストの低さは魅力的であった模様です。

各クラウドのメリデメまとめ

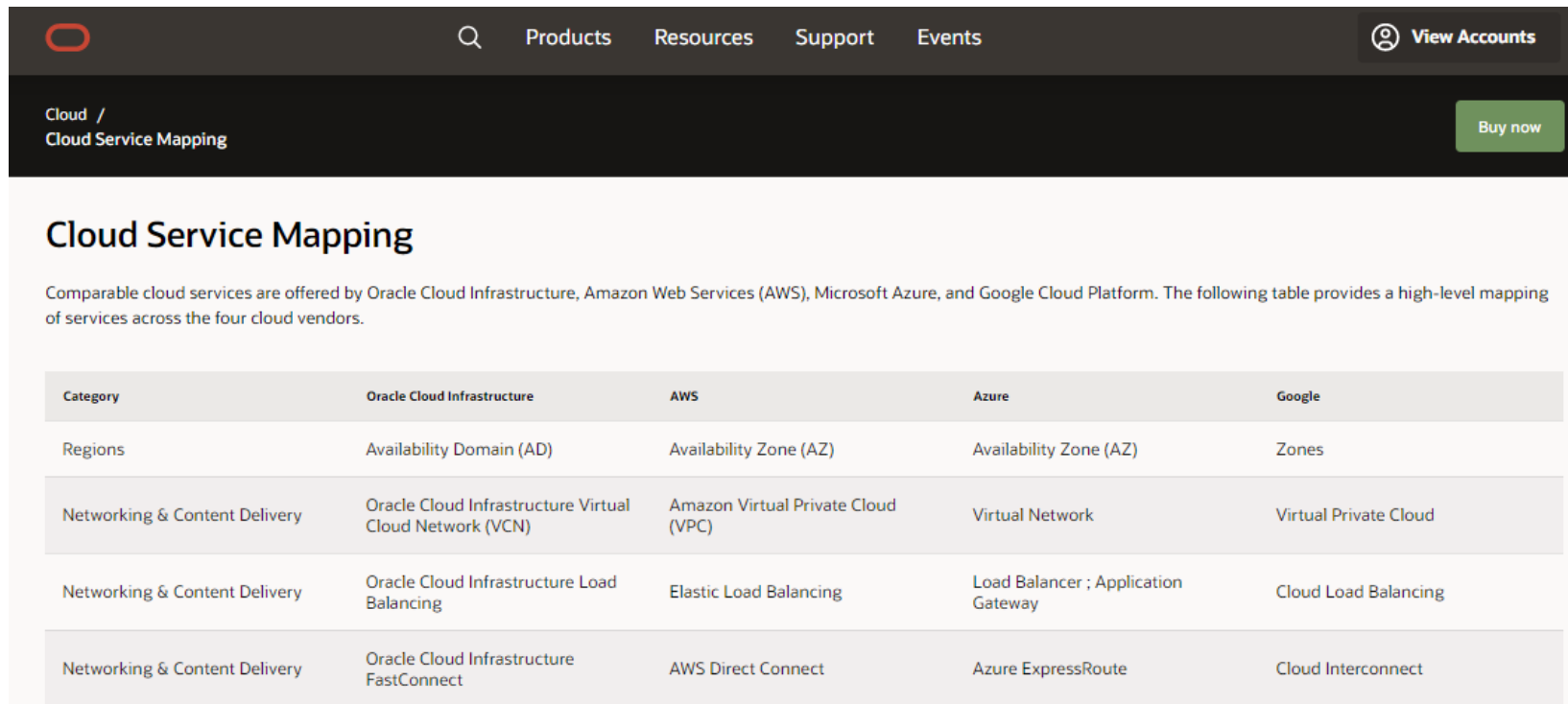
私の所属する部のメンバーに各クラウドのメリデメを聞いてみました。

	AWS	Azure	OCI
メリット	<ul style="list-style-type: none">・ <u>デファクトスタンダード</u>・ <u>サービスの種類が多い</u>・ 基本的に全操作がAPI経由で実施可能, SDK, CLIツールも高水準のものが多い・ 操作権限の制限がAPIレベル、リソースレベルで可能（な反面、複雑）・ 作ってみたなどの技術情報が多い	<ul style="list-style-type: none">・ <u>Microsoft製品との親和性が高い</u>・ Webコンソール画面がアイコン表示で見やすい・ リージョン数が多い・ ActiveDirectoryとの連携サービスがある	<ul style="list-style-type: none">・ Oracle Databaseとの親和性が高い・ 仮想サーバ、ストレージのコストが低め・ <u>アウトバウンド通信量が毎月10TBまで無料</u>
デメリット	<ul style="list-style-type: none">・ サービスやメニューの項目が増えて全体を把握しづらくなってきた・ <u>大阪リージョンがまともに使えない</u>・ アウトバウンド通信料が高額になりがち・ Private subnetのビルディングブロックであるNAT GWが割高感	<ul style="list-style-type: none">・ メニューにて各種項目の選択時に <u>デフォルトで高額なものが選択されているため、注意が必要</u>・ 閉域網の回線利用料が他のクラウドサービスより割高	<ul style="list-style-type: none">・ <u>サービスの種類が少ない</u>・ 技術情報の数が少ない・ 東京/大阪リージョンはADが1つしかない

各クラウドのサービス比較

オラクル社にてクラウドのサービス名の対応表が掲載されています。
※弊社のブログで下記サイトへのリンクの記事があるのですが、
わりとアクセス数が多いです。

https://cloud.oracle.com/ja_JP/iaas/cloud-service-mapping



Category	Oracle Cloud Infrastructure	AWS	Azure	Google
Regions	Availability Domain (AD)	Availability Zone (AZ)	Availability Zone (AZ)	Zones
Networking & Content Delivery	Oracle Cloud Infrastructure Virtual Cloud Network (VCN)	Amazon Virtual Private Cloud (VPC)	Virtual Network	Virtual Private Cloud
Networking & Content Delivery	Oracle Cloud Infrastructure Load Balancing	Elastic Load Balancing	Load Balancer ; Application Gateway	Cloud Load Balancing
Networking & Content Delivery	Oracle Cloud Infrastructure FastConnect	AWS Direct Connect	Azure ExpressRoute	Cloud Interconnect

さいごに

- どのクラウドにも特徴があり、提案内容は全く同じ構成ではなく各クラウドの特長を生かした提案となりました。
- クラウドのメリット・デメリットを見極めて最良な提案ができればと思います。